

	2025年度 (応札年度)	2020年代	2030年代	2040年代	2050年度
<電源> 袖ヶ浦火力発電所 新2号機	長期脱炭素電源 オークションで落札	① 水素転換シナリオ 環境アセス (2025～2028) 建設工事 (2029～2032)	2030年代後半 長期脱炭素電源オークションで落札 混焼化 改造工事 ② CCS化シナリオ 2030年代前半長期脱炭素電源オークションで落札 法・条例対応 CCS化 改造工事	2040年代前半 長期脱炭素電源オークションで落札 環境アセス 専焼化 改造工事 ※1 高混焼やクラッキング等による水素製造のための技術開発の実現や各支援制度の適用、燃料調達環境の確保も含めた事業性確保の見通しが得られることが前提 ※2 CCSIによる全量回収のための技術開発や法整備の実現、各支援制度の適用、CO2分離回収以降のサプライチェーン構築等も含めた事業性確保の見通しが得られることが前提	① 水素転換シナリオ ② CCS化シナリオ
<燃料種> 水素 CCS			① 水素転換シナリオ ② CCS化シナリオ	ブルー水素 グリーン水素 CCS	

＜前提条件＞

- ✓ 長期脱炭素電源オークション等の支援制度の適用を通じた、適切な投資回収及び事業性の確保
- ✓ 水素混焼・専焼、CCS化のための技術開発や法整備の実現、実証試験の成功、並びに金融機関から改造工事に必要な資金調達ができること
- ✓ 水素20～50%混焼またはCCS付の運転開始時期は、支援制度適用を踏まえた技術開発や事業の進捗等を考慮して決定
- ✓ 2040年代のブルー／グリーン水素の利用は、経済性や炭素価格等を踏まえて総合的に判断
- ✓ CCS導入は、国内外のCO2貯留地にて事業期間中十分貯留できる見通しがあり、クロスチェーンリスクに対応できうる当事者間の合意形成ができること
- ✓ CCS稼働開始時点の最新技術で全量回収を目指す、が、実現できない場合はCCS導入のフェーズを分け、非化石証書等を購入し補填する